

やっぱり冬は楽しい「あそ雪」

(2月18・19日)



親子に人気の雪上車

今年で24回目を迎える「あそ雪の広場」が2月18・19日に開催されました。18日の開会式で、目玉の雪像コンクール発表に、当別中学校1年生全クラスとときわ学級が校内に作成した「Save the earth」が大賞に選ばれ、待ち構えていた生徒たちから歓喜の声が上がりました。

開会式後には、冬の夜空に恒例の花火が打ち上げられたほか、ピングゲームに沸く子供たちの声がこだましました。

翌日には、今年初めて行われた雪中玉入れに22チームが熱戦を繰り広げた結果、役場サッカー部チームが優勝を飾りました。両日、天候に恵まれた会場では、建設協会が作った滑り台で楽しそうに遊ぶ子供たちや雪像で記念写真を撮る親子など、たくさんの人で賑わいました。

また、アウル会場では、本通振興会が振舞った甘酒やおしるこで、一息つく来場者の姿も見られました。

タウン

トピックス

Town Topics

広報誌で紹介した写真またはデータを希望者に提供します。

お申し込み

情報課広報広聴係

TEL 23-3069

雪像コンクール大賞作品



「食・農・環境」を考える

(2月17日)



食と環境を考え、変革意識を持つ農業者で組織する「創地農業21」が西当別コミュニティーセンターを会場に、「食・農・環境セミナー・ふゆみずたんぼ」を開催し、町外からも大勢の人が参加しました。

セミナーでは、「創地農業21」の代表で(株)アレフ代表取締役、庄司昭夫さんが外食産業の立場から農業や環境のあり方を、「NPO法人たんぼ」理事長岩淵成紀さんが、冬のたんぼに水を張り環境を整えて安全な稲作を行う「ふゆみずたんぼ」を紹介しました。最後に泉亭町長が、環境資源を大切に、都市と農村をつなぐまちづくりの取り組みについて講演しました。

「当別ダム」の早期完成願い会員結集

(2月2日)



町商工会が「当別ダム早期完成を求める商工会員大会」を商工会館で開催し、150人の会員が結集しました。

河村佳男商工会長が当別ダムに関するこれまでの経過を踏まえ挨拶したのち、札幌土木現業所当別ダム建設事務所の前田所長から、治水・利水・環境保全から見たダムの必要性やダム構造などが説明されました。

また、泉亭町長は水利権確保のためにもダムが必要であることを訴えました。

最後に「当別ダム早期完成を求める決議」を参加者全員で確認していました。

町長の日記

18年2月18日(土)

町広報の担当職員から「町長も何か書いてほしい」と云われて「あまり立派な文書は書けないから」と云いながら結局平成13年10月号に「町長の日記」と題して小文を書いた。

「日記」なら自分中心に書くことだから罪はないかなと考えたから

ところが来月も書けと上手におだてられて毎月書くはめになった。そうなれば広報誌だから日記の中で「何か一つ」は町民の皆さんに伝えたい事を書こうと決めて書き続けた。

1ヶ月にたった1日の日記だが最近では広報の担当者に「期限が迫りました」と催促されてばかりいる。特に町長二期目に入ってから全道町村会の役職が急に増えてしまって会議も多い。然し、全道の会議に出席するといろいろな情報が多く、大変有難いのでこれも一生懸命努めたい。

街でたまたま会った人が「町長の日記毎月読んでいるヨ」とか「広報が来たら一番最初に読んでいるヨ」などと云われて、その気になって4年半恥^{つたな}ずかしくもなく拙い文章を書き続けてしまったが、4月から広報の編集内容を少し変えることになったので「町長の日記」は今月で終わることになった。

私の母は3月で満90才になるが、今も日記を書いている。父が戦地に行った時から書き続けていたらしく、昭和41年に父が急死した数年後の法事の日に大学ノートの「手記」を見せられた。日記をもとに書いたもので戦争に行った夫の帰りを待つ4人の子どもをかかえた農婦の想いが中心だったから家族の関心は高かった。今では毎日の行動を書いてはいるが、翌日はほとんど記憶していないようだ。

書き始めて63年、あとどのくらい書けるだろう。

当別町長泉亭俊考

高校に「あそびのくに」ができたよ

(2月9日)



当別高校に小さなお子さんとおかあさんが集まって、高校生と楽しく遊びました。

同校が北海道教育庁石狩教育局との共催で行っている「いきいきさわやかスクール」の一環で、家政科保育コースの3年生が、卒業制作として「あそびのくに」を企画。昨年準備を進め、ペットボトルのボーリングや輪投げ、的当て、魚釣りなど全て手作りの遊び道具が会場を埋め、訪れた子供たちを喜ばせました。

子供と触れ合った高校生は「3年間の集大成として制作に取り組んできた。たくさんの子供たちが来て楽しんでくれているので、とても良かった。将来は保育関係の仕事に就きたい」と目を輝かせていました。

ホームステイで貴重な体験

(2月1日)



町の人材育成基金を活用した「高校生短期留学ホームステイ語学研修」に、遠藤駿さん・新宅ありすさんの2人が参加しました。

2人は、アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルス郊外の家庭で12月23日から1月11日までの20日間ホームステイを体験。帰国後に役場を訪問し、泉亭町長に滞在先での思い出や勉強になった事などを目を輝かせながら報告しました。今回の経験を生かして、遠藤さんは「国際的に活躍する弁護士になりたい」、新宅さんは「世界の問題をテーマにミュージカルをしたい」と将来の夢を話していました。